

検査内容変更のお知らせ

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃は格別のお引き立てを賜り厚くお礼申し上げます。

この度、下記検査項目の検査内容と報告書につきまして、変更させていただくこととなりましたので謹んでご案内申し上げます。

先生方には大変お手数をお掛けいたしますが、何卒ご了承賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

謹白

記

■変更項目及び実施日

【実施日】2022年4月1日(金) ご依頼分より変更

項目コード	検査項目	変更内容	新	現	検査案内掲載ページ
2557	ABC 検診 ※	検査項目名称	項目コード：2557 胃がんリスク層別化検査 (ABC分類) 項目コード：4439 胃がんリスク層別化検査 (ABC分類) 除菌あり	項目コード：2557 ABC 検診	P2
		判定	A 群、B 群、 C 群、D 群、E 群	A 群、B 群、 C 群、D(C)群	
4198	ペプシノーゲン I、II	検査項目名称	ペプシノーゲン	ペプシノーゲン I、II	
		判定	(-) (1+) (2+) (3+)	陰性 陽性 中等度陽性 強陽性	
		基準値	(-)	陰性	

※ピロリ菌の除菌治療を受けた方は、除菌判定の結果に関わらず、ABC 分類の判定対象とならないため、除菌者用の項目コードを新設し、認定 NPO 法人 日本胃がん予知・診断・治療研究機構から出された『ABC 分類 胃がんリスク層別化検査(ABC 分類)の運用手引き』に基づき、A～D 群(非除菌群)と E 群(除菌群)に分けてご報告いたします。

※ピロリ菌の除菌治療を受けた方は、項目コード：4439 胃がんリスク層別化検査(ABC 分類) 除菌ありをご依頼ください。その際の報告は判定結果に関わらず、E 群(除菌群)として報告いたします。

以上

検査のご依頼に関するご不明な点やご要望等につきましては、弊社営業担当、または学術インフォメーションまでお問い合わせ下さい。TEL:075-631-6230

●【2557、4439】胃がんリスク層別化検査(ABC分類) 報告書見本

(報告書表面)

胃がんリスク層別化検査報告書

〒 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 先生

〒 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 先生

〒 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇 先生

ABC分類の判定は E **です**

検査項目	結果	単位	コメント	判定基準
ペプシノゲン1 (PG1)		ng/mL		3+: PG1 30ng/mL以下 かつ 1/2比2.0以下
ペプシノゲン2 (PG2)		ng/mL		2+: PG1 50ng/mL以下 かつ 1/2比3.0以下
ペプシノゲン1/2比				1+: PG1 70ng/mL以下 かつ 1/2比3.0以下
ペプシノゲン判定				-: 上記以外

・検査方法：ラテックス凝集比濁法

検査項目	結果	単位	コメント	判定基準
抗ヘリコバクター・ピロリ抗体		U/mL		10未満 (-)

・検査方法：ラテックス凝集比濁法 (H.ピロリ-ラテックス「生研」)

ABC分類に適さない方
胃の病気の治療中の方、胃切除後の方、胃酸を抑える薬を服用中の方、腎不全の方、ピロリ菌の除菌治療を受けた方は、医療機関にご確認・ご相談ください。

コメント

製日本医学臨床検査研究所
東京都港区赤坂 本社3F
東京都久世町外堀内六丁目16番地10

検査責任者

(報告書裏面)

胃がんリスク層別化検査は、「ヘリコバクター・ピロリ菌感染の有無を調べる検査」と「胃粘膜萎縮(老化)の有無を調べる検査」を組み合わせて、胃の健康度を分類するものです。「がんを見つける検査」ではありません。

A群 おおむね健康的な胃粘膜で、胃の病気になる危険性は低いと考えられます。逆流性食道炎などピロリ菌に関連しない病気に注意しましょう。未感染の可能性が高いですが、一部はピロリ菌の感染や感染の既往のある方が含まれます。一度は内視鏡検査等の画像検査を受ける事が理想的です。

B群 少し弱った胃粘膜です。胃萎縮・十二指腸潰瘍などに注意しましょう。胃がんのリスクもあります。内視鏡検査を受けましょう。ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。

C群 萎縮の進んだ弱った胃粘膜と考えられます。胃がんになりやすいタイプと考えられます。定期的な内視鏡検査をお勧めします。ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。

D群 萎縮が非常に進んだ胃粘膜と考えられます。胃がんなどの病気になるリスクがあります。ピロリ菌感染診断をお勧めします。かならず専門医療機関で内視鏡など診断を受けご相談ください。ピロリ菌の除菌治療を受けた方はE群となります。

E群 ピロリ菌の除菌治療を受けた方は、除菌判定の結果に関わらずE群(除菌群)として定期的な内視鏡検査を受けましょう。E群は除菌により胃がんになるリスクは低くなりますが、決してゼロになるわけではありませんので、除菌後も内視鏡による経過観察が必要です。

問診 除菌の有無を確認する

除菌治療をされていない場合

A群 B群 C群 D群

↓

内視鏡検査

↓

除菌治療

↓

除菌判定

↓

リスクに応じた画像診断

除菌治療をされた場合

E群(除菌群)

↓

ピロリ菌の除菌治療を受けた方は、除菌判定の結果に関わらず、E群(除菌群)として、定期的な内視鏡検査を受けましょう。

ペプシノゲン法 (検査項目名称：ペプシノゲン)
「ペプシノゲン」という物質の血中濃度を測定することで、胃粘膜の萎縮(老化)を客観的に調べる検査です。

ヘリコバクター・ピロリ抗体 (検査項目名称：抗ヘリコバクター・ピロリ抗体)
胃がヘリコバクター・ピロリ菌に感染していないかを調べる検査です。

監修 一般財団法人厚風会 厚風会健康管理中心 井上和郎

●【4198】ペプシノゲン判定基準

		ペプシノゲン 1	ペプシノゲン 1/2 比
強陽性	3+	30.0ng/mL 以下	かつ PG1/2 比 2.0 以下
中等度陽性	2+	50.0ng/mL 以下	かつ PG1/2 比 3.0 以下
陽性	1+	70.0ng/mL 以下	かつ PG1/2 比 3.0 以下
陰性	-	上記条件以外	

